

対話型授業(2016/7/11)

人口減少で「選択と集中」が重視されている中で、今後は、貴重な水資源である「飲める水」はペットボトルで供給するべきだ*。

・(学生番号が偶数=賛成, 奇数=反対 :議論と人格の分離)

*朝日新聞2013/5/18より

<賛成>

1. 川から離れた地域では(安い)水を選ぶ
2. 老朽管の更新がされていない(鉛管は問題)できない (←飲み水でなくても更新しなければなら 浄水器で対応できる)
3. 水道管の老朽化でアレルギーなどに悪影響(経営状態から更新できない)
4. 日本人は、きれいな水に慣れすぎている。ミシガン州では、飲み水はペットボトルであたりまえ

<反対>

1. ペットボトルの償却による有毒ガス
2. リサイクルに石油がたくさんいる, 洗浄に水もいる, (+手間, 施設) (←水を入れ替えるだけなのに石油がいるの?)
3. ペットボトル水は水道水よりも値段が高い(運搬費...)水道水は平等 (←トイレなどの水でコストを下げるのが可能←本当に下がるか)
4. 供給するための施設も労働力もがいたので現実的ではない。
5. 松江の水はモンドセレクション金賞 (←どんな重みがあるのか?)
6. ニューヨークでは水道水を飲むのが流行している

- 投票結果での1位は、反対意見の2番でした。
- 投票には反論(カッコ内の←意見)も対象とするべきでした。

賛否の割合(2016/7/11)

討論前(今回は学生番号で分けて)			
学部	賛成	反対	合計
法文	31	25	56
教育	1	3	4
総合理工	5	1	6
生物資源	23	21	44
合計	60	50	110
(%)	54.5	45.5	100.0

討論後			
学部	賛成	反対	合計
法文	11	47	58
教育	0	4	4
総合理工	1	5	6
生物資源	14	32	46
合計	26	88	114
(%)	22.8	77.2	100.0

判定(どちらが充実していたか?)			
学部	賛成	反対	合計
法文	5	53	58
教育	0	4	4
総合理工	1	5	6
生物資源	3	41	44
合計	9	103	112
(%)	8.0	92.0	100.0

- ✓ 今回は学生番号で賛否を分けて座ってもらいましたが、「議論と人格の分離ができていない」との意見が複数ありました。
- ✓ このあたりを教員が徹底していれば、どちらかに議論が偏ることはなかったかもしれません。
- ✓ 「対立や葛藤の中に創造の種がある」という考えもあります。

< 討論の感想 >

- 勝ち負けではなく、意見に耳を傾けることが重要だと思った。
- 何事にもメリット・デメリットはあり、世の中に唯一の正解と言うものはないと思った。
- 他人の意見を理解するには、自分の知識が豊富である必要があると分かった。
- 自分の意見が簡単に覆されるのがおもしろいです。
- 意見がぶつかり合うのがこんなに面白いとは思いませんでした。このようなことは大学でしかできないように思う。

< 賛否を学生番号で分けたことについて >

- 正直やりにくかった。学生番号で割り振って討論するべきではない。
- はじめは自分の意見と異なるので、どうかと思ったが調べてみると意外と材料がでてきて驚いた。
- 自分の意見とは逆の設定だったので、自分の意見にとらわれず、広い視野で調べることができた。
- 次回は、全員が自分の意見とは反対の立場で討論してはどうか。
- 自分は狭い価値観にこだわっていたことが分かった。

教員より: 賛成と反対で二者択一にする事、機械的に賛否を設定した事に違和感を感じたかもしれません。しかし、その違和感から様々なことを考えてもらうことが、このような授業のねらいの一つでもあります。